

# 令和4年度 事業計画書

自令和4年4月1日 至令和5年3月31日

公益財団法人 克念社

## 1. 人材の養成に関する育英事業(公益目的事業1)

育英事業は、克念社創立以来、現在まで継続している事業である。

現在、累計で貸費生総数は1,277名。若葉奨学基金給付生は8名。

### (1) 令和4年度新規貸費生と貸費学資金について

令和4年度の貸費生応募者数は、現貸費生で大学院に進学する1名を含み10名。

ここ数年減少傾向にあったが、昨年比7名増となった。

令和3年11月29日に貸費生選考委員会を開き、応募者全員を希望額通り内定した。

結果、新規採択者は、10名(月額4万円9名・同2万5千円1名)を予定しており、継続者17名で貸費生は計27名の予定である。

この貸費学資金は、金1,224万円となる。

(内訳)	新規採択者	年30万×	1名=	300,000円
		年48万×	9名=	4,320,000円
	継続者	年30万×	3名=	900,000円
		年48万×	14名=	<u>6,720,000円</u>
	合計	27名		12,240,000円

### (2) 令和4年度若葉奨学基金給付生について

風間若葉様からの遺贈を特定資産とし、これを原資に給付型の奨学金を創設。令和3年度の応募者は9名(うち貸費生との併願は4名)。こちらも応募者は減少していたが、今回は昨年比で6名の増となった。

令和3年11月29日に貸費生選考に引き続いて、給付生選考を行い、2名を内定した。

継続者は3名で、計5名。この給付金額は、金120万円となる。

### (3) 令和4年度貸費資金入金見込額について

当年度の貸費資金入金見込額は2,500万円の予定である。

## 2. 文化財の維持・管理および公開事業(公益目的事業2)

(1) 重要文化財「丙申堂」と登録有形文化財「無量光苑釈迦堂」の公開にあたり、その内容の充実に努め、二つの文化財をセットとして有機的に結び付ける。今年度は維持・管理面で特に防犯カメラの設置を検討する。

(2) 「丙申堂」と「無量光苑釈迦堂」の入館者数は、コロナ禍により令和3年度は昨年同様で令和元年度に比べておよそ3分の1である。コロナ感染の観光への影響は3年目に入り、令和4年度も影響は残るものとみられるが、終息に向かう中で観光客は増加するものと考えられる。

令和4年4月24日(日)に鈴木美智子さんの歌のイベントを予定している。

(3) 丙申堂の東側の聖徳太子光寿無量堂を文化財に、との長年の希望があり、澤田享評議員ご協力いただきながら、調査および報告書の作成作業を進めてきた。澤田氏が、秋田市在住であり、コロナ禍の影響を受け作業が当初の予定より遅れているが、引き続いて資料作成等をお願いし、この春を目途に提出予定である。

### **3. 山林を活用した地球環境保全事業(公益目的事業3)**

(1) 豊かな自然を持つ里山に親しみながら、山林を愛する心を育むと共に、森林を保全するために必要な山の仕事に理解を深めることを目的とし、親子で参加する森林体験学習会を春と秋の2回開催する。

(2) 山林の整備は例年同様、外部に委託し、管理費としては従来の実績を踏まえつつ、山林整備に努める。

(3) 森林の健康な循環のために、適期を迎えた杉の立木を伐採し、山林収益につなげる。今年度は350万円を予算計上する。

### **4. 土地、建物の貸与事業(収益事業)**

(1) 基本財産の土地は(株)庄交コーポレーションに、また特定資産の駐車場は一般利用者に賃貸している。また、運用財産の内、本町1丁目の土地・建物は、庄内文化センターに賃貸中であり、そのほかの土地・建物を(有)パンハウス庄内、(株)荘内ハウジング、(社)鶴岡地区医師会外に賃貸している。令和4年度も継続予定であり、安定した賃貸収入により公益目的事業の遂行を図る。

(2) 日本仏教研究のため、東京大学文学部印度哲学仏教学研究室に対し行っている助成、また、日本仏教史研究講座、特に聖徳太子講座開設等の運用資金として、公益財団法人中村元東方研究所に対する助成については、例年通り令和4年度も収益事業の中で継続する。そのため研究費として予算100万円を計上する。

以 上